



### 四面觀世音菩薩

昨年は二回、アンコール遺跡を訪れた。たくさん撮った写真の中で一番気に入っているのが

今回の四面觀世音菩薩で、絵はがきのようにだと自画自賛している。アンコール遺跡の双へきといえはアンコール・ワットとアンコール・トムだ。



四面觀世音菩薩の石塔

国旗や紙幣に描かれているのでアンコール・ワットの方が有名だが、私は断然、アンコール・トムの方が好きだ。

アンコール王朝六百年の歴史で二十六人の王様を数えるが、アンコール・ワットは第十八代の王が建てたヒンズー教寺院。一方、アンコール・トムは第二十一代が作った都城。一辺が三<sup>キ</sup>、総面積九平方<sup>キ</sup>はアンコール遺跡最大の広さ。その中心にあるのが仏教のバイヨン寺院である。

### 第二十一代ジャヤヴァルマン七世は敬けんな仏教徒で、バイヨン寺院の中に何と五十四の四面觀世音菩薩の石塔を建立した。

大きいものは高さが二十<sup>メートル</sup>以上もあり、顔だけで三<sup>メートル</sup>もある。一面々々の石仏顔のほほえみは少しずつ違う。「バイヨンのほほえみ」と贊えられ、第一面を「メタ」といい、恵みや憐れみを表しているという。

第二面は「カルナ(親切)」、第三面は「ムチ

タ(同情)」、第四が「ウベカ(喜び)」を表す。日本の觀世音菩薩はほとんどが一面なのでそれを拝む。

しかしクメールの四面觀世音菩薩はどこが中心かわからない。そもそも拝むために建立されたのだろうか。わからないことが多いので、あかい坊の三池孝尚名誉任職に聞いてみた。

三池さんは私がかかわった山口放送ラジオで、歯に衣着せぬしゃべりで人気者になられた異色の僧侶である

三池さんによるとクメールの觀世音菩薩はクメール独特のものがあ、今も謎の部分が多いという

○頭の上の冠のようなものは何を表しているのか

○なぜ首から上だけの石塔なのか

○なぜ四面なのか

紙製の四面菩薩を持つ三池さん



目・白毫(びやくごう)がなぜないのかなどなど仏様の条件を満たしていないとも言えるという。

三池さんの話で私が疑問に思っていたことがひとつわかった。

アンコール王朝は王様によって仏教だったりヒンズー教だったりするのなぜだろうと

仏教はインドで釈迦牟尼によって開祖されたが、その後、仏教はつぶされ、国民のほとんどはヒンズー教。そしてインドでは仏教はヒンズー教の一派のよ

うな存在であるとか。クメールの人たちに仏教がどのように伝わったかはわからない。しかし今、私たちはヒンズー教と仏教は全く異なる宗教と違って、インドで仏教がヒンズー教の一派だったという話はアンコール王朝では王様によって仏教が中心だったり、ヒンズー教が中心だったりしたことがわかるような気がした。それにしても四面觀世音菩薩にはわからないことが多い。(元山口放送取締役ラジオ局長)